

緑の地球ネットワーク

2017 春の黄土高原スタディツアー

体験記

2017.4.8～13



認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク

〒552-0012 大阪市港区市岡 1-5-24-303

TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182

e-mail : gentree@s4.dion.ne.jp URL <http://gen-tree.org>

【日程】

4月 8日 (土)	朝、出発。昼、北京着。バスで河北省張家口市蔚県へ	蔚州賓館泊
9日 (日)	蔚州博物館、暖泉鎮参観	//
10日 (月)	永寧寨村で起工式、植樹。柏樹郷中心学校で交流	//
11日 (火)	永寧寨村で植樹。飛狐峪参観	//
12日 (水)	蔚州古城 (蔚県旧市街) 参観。午後、バスで北京へ	富駅時尚酒店泊
13日 (木)	朝、北京市内で買い物。午後、帰国	

(読みがなは原則として日本語の音読みをあてました。)

【参加者名簿】

S. A	東京都	K. U	東京都
K. K	京都府	S. K	大阪府
H. S	奈良県	M. S	奈良県
M. S	愛知県	C. S	兵庫県
T. S	千葉県	S. S	大阪府
高見 邦雄	兵庫県	J. T	茨城県
Y. N	京都府	J. N	長野県
K. N	東京都	T. B	北京市
H. H	大阪府	東川 貴子	兵庫県
Y. F	千葉県	前中 久行	大阪府
N. M	京都府	K. M	東京都
T. M	大阪府	T. M	長野県
M. M	長野県	H. M	東京都

【中国側スタッフ】

李志剛 (共青团蔚県委員会書記)

宋亜男 (共青团蔚県委員会)

王美立 (蔚県恵農商貿有限公司社長)

崔 斌 (中国国際青年交流センター通訳)

● 4月8日（土）うす曇

【T.S記】

本日より、黄土高原スタディツアーがスタートしました。私は関空出発組でしたので、朝7時関空チーム待ち合わせ場所に向かうべく、自宅を朝5時に出発しました。天気はくもりと記載していますが、朝の大阪は小雨の降る肌寒い天気でした。無事関空に到着し、メンバー13名もそろい、いざ北京に向けて出発!! 関空組は何事もなく無事北京に到着。入国手続きも問題なく、通過できました。飛行中の機内食で私たちは最後列なため、一列前までは「ビーフ or チキン」でしたが、私たちは「ビーフオンリー」と、チキンを食べたかった私はショックでしたが、食べてみたらおいしく満足できました。また、着陸前、窓から見る風景は雲につつまれていたのが、高度が下がるに従って地上が見えてきて、広大に広がる平野に大陸の大きさを改めて知ることができました。北京に近づくにつれ、高層マンション群になり、まだ建設中の建物もあり、中国（北京）のパワーを感じました。

機内から話を戻して、関東組とも合流し、バスにて蔚県に向けて出発。車窓の風景は、北京を抜けてからは万里の長城、あんず畑、と4年前と変わらない風景を見て、やっと黄土高原に向かっていると実感できました。道中4時間はほとんど寝てしまっており、所々しか記憶がありませんのでこれくらいで。ホテル到着後の部屋割りでは4年前にご一緒したTさんと同じになり、昔話に盛り上がりました。夕食後には、同じく4年前の仲間のUさんやサントリーの皆さんと、崔さん案内のもと町あるきをし、町を知ること、交流を深めることができました。

明日からいよいよ、活動がスタートします。今回ご一緒させていただく皆様と力を合わせて植樹を成功させたいですし、地域の皆さま、参加している仲間の皆さまとの交流を深めていきたいと思えます。

以上

【H.S記】

関空組13名は7時に集合した。小雨の降る中であつた。

予定より10分早く8時50分に離陸。北京到着も10分位早かった。

空港にて、各方面からの参加者一同がそろい、バスに乗り込むまでに大分かかったが、14:00頃、一路蔚州に向けてバスは出発した。

高速道路の両側にはすでに芽吹いた柳やポプラ等々の瑞々しい緑があふれ、そのなかに、色とりどりの花が咲いており、官庁ダムに到ると、風力発電の風車が以前に比べて一段と多くなり、いったいどれ位あるのか……。その面では、先進国振りに改めて驚いた。河北省に入ると山は急に緑の少ない黄土の山となり、久々に見る侵食谷の険しさにも改めて見入った。

しかしその中でも、色々と農作業に取り組んでいる人々の姿が見え、楽しかった。苗木を育てる大規模な苗木畑もいたる所にあり、また、マツを植林している山もよく見られた。国をあげて、植林に取り組んでいることが思われた。一方でまだゴミの谷のようになっているところもあり、この広大な国の大変さも思われた。一貫して道路脇には花があふれており、うす紫の諸葛菜の一面の景色を楽しみ、桃、杏、れんぎょう、木蓮、花ずおう、等々、心奪われた。終わり近くの道路の名を「エーデルワイス通り」（雪絨花通）と前中先生の説明があつた。

北京からの道のりは、花に興味のある私にはとても楽しい時間であり、明日からの作業への英気を養ってくれた気がする（しかし、本番ではどうなるか心配）。

蔚州賓館で高見さん、現地のスタッフのみなさんが迎えてくださり、夕食は数知れぬ珍しいお料理をいただき、一日を終えた。完。

【K. U 記】

今回で GEN さんに関連するツアーの参加が 4 回目になります。行く度ごとに中国の発展を感じてきました。初日の 4/8 は日本から蔚県への移動だけでしたが、その中でもさまざまな進化を感じ取りました。具体的には以下のとおりです。

(北京空港)

- ・空港の入国審査の担当者が、皆、笑顔でした。カタい表情のこれまでとは大違いです。
- ・心なしか、北京の空は例年よりカスミが少なくなっていました。

(移動中)

- ・空港の列、車の渋滞が少ないようにも感じました。何か取り組んだのでしょうか。
- ・北京市との境でエンストしている車（トラック）も減っていたように感じます。そもそも古い車も減ったような……。
- ・高速鉄道の整備が急速に進んでいました。昨年、見たことのない柱がいたるところに出現します。

蔚県では、大同よりも人通りが多く活気を感じます。これはホテルの位置の問題かもしれませんが。街並も大同より古く、また、青年団の方々のやる気、若さを感じます。おもしろいことができるのではないかという期待があります。

まだ初日を過ぎただけですが、ツアーの奥深さにワクワクしています。これは、GEN さんならではの幅広い年齢層、人の厚さのある人びとが集っていることもワクワク感を加速させています。

みなさん、よろしくお願いします。

【T. M 記】

新しい地での黄土高原スタディツアーの初日が始まりました。北京空港のターミナル 3 の到着出口のところで 13 時頃、関空組、羽田組、JAL 組や前泊組やらが集合。私は長野からなので、昨日羽田経由で北京入りしての前泊組 3 人の 1 人です。無事に集合を完了して、13:30 頃北京空港をバスで出発して高速道路で河北省張家口市蔚県へと出発できました。バスの中でパンや牛乳、果物などが配られて、ちょっと遅い昼食をとり、17 時 30 分頃にほとんど予定通りの時間に蔚州賓館に到着。本当に順調な旅でした。部屋割りなどの後、各自部屋に入って、18:30 から宿の 2F での夕食となって、幸先の良いスタートとなりました。

U 先生のお話では、かなり植林に意欲的な地元体勢だそうで、あまり押しつけにならないようにジックリと進めて形づくってゆきたいとのことで、明日からの活動がとても楽しみになってきました。

今回の参加者は、高見さんや前中代表をはじめ、東川事務局長など GEN 中心スタッフから、参加 9 回の常連や、イオンやサントリーの組合の方々の下見的な参加など、とってもしんいメンバーになっているように思います。はたしてどんなスタディツアーになってゆくのか、ますます楽しみになってきます。

私自身は 50 年ほど前に「沈黙の春」に出会って以来、環境問題をテーマとしてきました。特に自然体験活動を通して環境行動への動機付けを中心としてきた中で、ただ「楽しかった。気持ち良かった」で終わってしまうことが多く、「地球のために」が「自分や家族のために」という自分事に負けてしまって環境行動を減らすという現実をどうするのか！ どうしたら環境問題を自分事にできるかが中心テーマとなりました。

そうして見つけたのが、環境問題の原因の私たちの文明生活が、他の野生動物たちと同じように私たち自身の生き物の部分（＝私たちの身体や心のメカニズム）を壊している（生活習慣病）ということです。自分と家族の幸福の中心にある、自分や家族の身体と心の健康を、自分たち自

身の生活が壊していることに気付いて生活を直してゆくという、まさしく自分事です。

「自分も生き物なんだ」を思い、意識して、自分の生活のしかたを作りなおしてゆくという方向ならば、環境問題の原因を少しずつでも着実に減らしてゆくことができるのではないかと考えているところです。いかがでしょうか？

● 4月9日（日）朝：晴れ、昼以降：曇 温度 2°C～16°C

【H.M記】

昨日はずっと空が白く、曇っているのかこういう空なのか判りかねていたが、本日は青色が見え、気持ちのよい始まりとなった。

蔚州博物館では、駐車場のEVの電気スタンドに驚かされた。1台2台ではなく、10台以上のスタンドが設置されていた。そういえば昨日、近くのスーパーに立ち寄った際に、店内でVRの体験コーナーがあったことを思い出した。何やら色々新しいものが導入されているようだ。

博物館の展示は、（日本で言う）石器時代から清王朝まで多くの展示品と映像で説明されていた。中国はさまざまな民族が王朝を築き、こうした文化的なものを塗りかえてきているのでは、と思っていたが、多くの文化財が残っていることに驚いた。この文化の先に、今のEVやVRを展示したらきっと面白いな、しかし、わけがわからなくなるな、と思った。



歴史と現在の対比が非常に興味深い体験だった。

暖泉鎮でも同じく、到着してすぐのガラスの塔と薫一族の家のコントラストが強烈だった。こうした価値観を併存することができるのも、中国の魅力なのだろう。



田長(勝手にさうお呼びします)と内うせき。

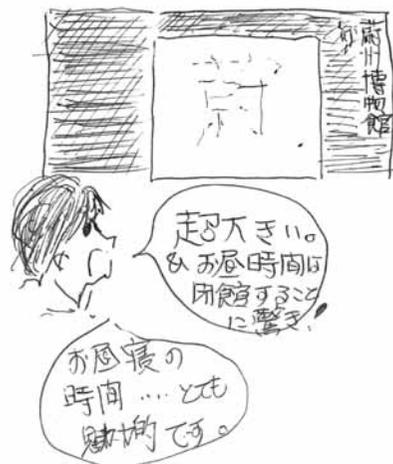
【Y.F記】

朝、道路を走る車のクラクションで目がさめた。昨日は思いつき熟睡したので、目覚めはバッチリ。今日一日がとても楽しみです。外は少し肌寒い感じです。

朝ごはんは、アワのおかゆ、野菜の酢づけ、きゅうりのあえもの、あげぱん、まんとうなど、とっても美味しかったです。アワのおかゆはやさしい味でホッコリしました。

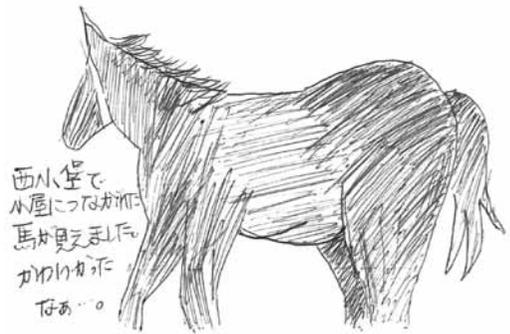
午前中は蔚州博物館見学。大きくとても立派な博物館でした。旧石器時代に人が住んでいた跡があり、その展示がされているのを見たとき、日本の旧石器時代の展示と重なってしまいました。上手くいえないのですが、それを見たとき「人間の源流は皆同じなんだなあ」と思い、少しうれしい気持ちになりました。そしてその後の歴史の流れの大きさを感じました。源流は同じでも、その後の歴史、文化といった環境などによってそれぞれの文化の考え方がつくられていくのってすごいと思いました。

午後は暖泉古鎮見学。敵が攻めてきた時のことをよく考えられた城壁や街並がとても面白かったです。切り紙をつくっている方の仕事風景も拝見しました。掛け軸になるくらい大きな紙に“福”の字をきれいな模様入りでつくっていくその細かさにびっくり。とてもきれいでした。





高い壁と立派な城門は外から攻めてくる敵から守るため……。その時その時の文化(?) 文明、時流で、建物の様式や考え方も変わってゆくを感じました。



今日も一日ありがとうございました。明日もよろしくをお願いします。

【K.N 記】

今日は昨日からすると、たいへん寒い1日でした。最低気温 3℃、最高気温 11℃。昨日があまりにも暖かかったので、防寒着を持ってきすぎたか!?! と思っていましたが、今日は全てを着用!!

ちょうど日本出発前、テレビのニュースで見たのですが、鹿児島県の南では、ソメイヨシノが咲かなくなってきているそうです。これは温暖化の影響のようで、今後何十年か後には、九州の半分くらいは桜が咲かなくなるかも……? ちょっと恐ろしいニュースでした。

そしてもうひとつ。アメリカがシリアに攻撃……。悪いニュースを尻目に蔚県にやってきて、午前中は博物館の見学、午後は暖泉古鎮の見学でした。

どちらも共通していたのは、人間の長い歴史をたどるのですが、争いごとの展示がたいへん多いということです。人間の出発点は自然と共存し協力しあっていたはずなのに、どこかの地点で自然を崩しはじめ、争い続けてきたと感じました。

今回のツアーのカリキュラムでは、温暖化のことも、戦争のことも、改めて考えさせられる場面があり、有意義な時間を過ごせそうです。

とりとめのない文章ですが、明日もどうぞよろしくをお願いします。

【M.S 記】

昨日の朝が早かったので(飛行場への時間がかかるので5時起き)、昨夜のビールも手伝ってか昨夜はぐっすり眠ることができた。いつものごとく、6時前には目がさめて、近くの公園まで散歩に出かけた。

日曜日ということもあるのだろうか、公園の周囲の道を列を作って大勢の人が歩いていた。少し速く歩いている感じだ。まるで通勤ラッシュ時の人の流れのような感じだった。黙々と歩いている。公園の中では、ダンスをする人、バドミントンをする人、太極拳をする人、運動器具を使ってトレーニングしている人…、とてもにぎやかだ。日曜日の朝、こんなに公園に人がいっぱい、何ともすがすがしい気分になった。

朝食後、蔚州博物館へ。バスで10分近くで到着。開館前ということで館の周りを歩く。電気自動車用の充電プラグが設置されているのに驚いた。博物館の建物はとても立派だ。失礼ながら、こんな地方都市には立派すぎるのでは、と思ってしまう。展示もきれいで、うまくまとめられている、と感心させられた。こういったところにくると、いつも「いかに、戦いのために、人間のエネルギーが多く費やされたのか」と思い知らされる。何とかしたいのですが…。

11時30分には、昼休みのため閉められるという(「働き方改革」とかを叫んでいる我が国の誰かさんに聴かせたいものだ)。12時にはホテルに帰り、昼食に。

昼食、昼休み(?)後、2時30分に暖泉古鎮見学へ。バスで30分ほどで到着。暖泉古鎮、西古堡、

昔ながらの生活のたたずまいまで残り、今も、人びとが生活している。日本でも、江戸時代の宿場風の様式を残しながら今も生活しているような街が話題になってるし、私は、去年、上海と重慶で、古鎮をブラついた。でも、古い建物を生かしながら、土産品を売る店がいっぱいで、どうも興醒めしてしまうのだ。昔を捨てる必要はないかもしれないが、今の人が生活しやすいように様式を変えては、とつい思ってしまう（ただ将来に対しては気をつかう必要ありだと思うが…）。夕食は暖泉鎮招待所でとり、ホテルには7時過ぎ到着。その後、希望者で、近くのスーパーへ。朝散歩した公園の地下にあった。朝、散歩してる時は全く気付かなかったのだが……。

今日は、見学中心の一日でした。

● 4月10日（月）朝曇 後晴

【S.F記】

今日から植樹の開始。昨日と同じく7時半朝食。

8時半出発。一路東へ向かい目的地へ。途中線路を越えたが、これは貨物専用路線で客車の往来はないとの説明。また北京と蔚県を結ぶ高速道路の建設現場を横切る。数年後には北京との交通時間は大幅に短縮されるだろう。徐々に山に近くなっていくが、アンズの木が目立ち始める。やがて山道を登りはじめる。途中急カーブの難所で車がエンストを起こし、みな外に出て車を押さねばならないかと気をもんでいたがさすがにわが運転手、ここを通過した時は期せずしてみな拍手。やがて、山の頂上付近に赤、青、黄、緑の旗が立ちならぶ「西山造林地区」に9時半頃到着。この辺りは高度1300m位らしく、やや空気が冷たい。このころになると晴れてきて、風もなかったのが幸이었다。

苗の到着まで少し待つことになる。日中交流の植林事業開始の記念碑の除幕式がとりおこなわれ、共生団李書記、蔚県恵農商貿有限公司王美立社長、GENの前中代表の挨拶があった。

その後各自中国式の長い柄のスコップを手にして植樹の場所に向かう。すでに穴が掘ってあったところに松の苗を植えていく。慣れた人、初めての人、それぞれ思いを胸にこのツアーの本来の目的の仕事を進めていく。12時前作業終了。今日の植樹は現地の人の分と合わせて500本ということであった。

山を下り、永寧寨村の活動センターで昼食。私たちの部屋は比較的静かだったが別室の若い人が多い部屋は昼間から相当盛り上がっていた。

集合写真を撮り、暫時休憩のあと、柏樹郷中心学校に14:45到着。小学生との交流会に臨む。小学5、6年の男女生徒約40人と交流。小学生の用意した塗り絵の下書きに小学生の指示にしたがって塗り絵を共同で完成させていくという工夫された趣向、久しぶりに童心に帰る。私たちは「北国の春」と「幸せなら手をたたこう」を合唱。約2時間の交流会を終わり、ほのぼのとした気分ですぐに就く。6時帰館、6時半夕食。

【S.A記】

第2日目

昨夜はシャワーの水が熱水にならず、てっきり設備故障と思い込み、ホテルの担当者に話すも、言葉が通じず、要領をえず。…夜ホテルに戻った時、再度担当の女性とやりあったが要領をえなかったが、隣の部屋の人に聞いたら、ハンドルの方向が逆だったことが判明。一件落ち着いたが、思い込みの強さがトラブルの原因でした。ホテルの人の対応の素っ気なさもあって、だいぶんカッカしたが、冷静にフレキシブルに対応することが肝心だ。

朝食：シンプルで、野菜類はおいしいけれど、牛乳は期待はずれでうすくて口に合わず。ゆで卵は、カラはすぐむけ、うまいが、新鮮度はどうかな？

午前中：いよいよ今回の最大目的の植林作業へ8:30、2台のバスに分乗していざ出発。

蔚県は中央部分が比較的平坦で、海拔約1000m位で下側（南）は高い山が連なっており、今回の植林対象エリアは東側方面に走った、山の際（かなり登った）ところであった。

平地を走る間は広い車線でスピードも速いが、いざ山道に入ってみるが、がたがた道で、道幅も狭く、急カーブ、急斜面の連続で、途中バスがエンジン・ストップし、再発進するもエンストするなど、ヒヤヒヤだった。確かに定員ギリギリであったからやむをえないと思うが、安全のためには再考が必要だ。

頂上では今回の植林活動が中国政府関係、蔚県関係者と我々日本側の初のプロジェクトスタートということで、白石の記念碑の除幕式と関係者トップのあいさつで、日中友好・中国の緑の環境向上に共に協力していこうとのメッセージが宣べられた。周囲の山々を見回すと、一部すでに植林が始まっており翠の木立もあるが、圧倒的な広さの段丘山肌の地面が広がっている。これから、何年かかけて取り組む大変さが想像できたが、一方、日・中両国の協力と努力で、将来、緑の山を取り戻せるという期待・喜び・楽しみを感じることができた。

植林作業自体はかなり急斜面で、滑りやすい割石が多く、中国製の大型で重いスコップで穴を掘っても、石がゴロゴロでちっとも深い穴が掘れない。

苗の松は、根本部分は保水のためもあるが黒いビニールキャップで包んであるが、中国側の指導では底の部分のみを取り除けば良いとの指示だが、GENの仕様は、ビニールキャップは全て取り外せとなっているので、一瞬どちらにしようか迷う。GEN方式は、長年の実験・実勢の上なので正しいと思うのだが、この土地ではどうなのか、一抹の不安はある。

今回は中国側の植林チームも一緒に作業をできたことは印象的だった。また、共産党の地区の責任者も同行し我々と全て共に行動してくれたことに、特別な印象を強くした。

昼食：蔚県植林公舎にて昼食会をもった。人数の関係で2部屋で分かれて食べたが、次々と給仕される料理はいずれもおいしく（ハオツー）、もう満腹と思っても、これでもかという位、おいしい料理におおいに満足した。一方、隣の部屋では、若者を中心にビール（2.5°位）ではなく白酒（35°？）の乾杯と色々な話題に花が咲き、大盛況。会社の社長、共青团の責任者も加わって、おおいに肝胆腹を割った歓談をおおいに楽しんだ。

出発前に全員で記念撮影をする。

学校訪問、柏樹郷中心校での交流

小学生（5、6年生）男女20数人との交流は2人対になってカラーペンによる環境向上イメージ図を仕上げる。歌唱合唱（幸せなら手を叩こう、北国の春）と共同音楽エクササイズ。子どもたちにとっても、我々にとっても感動的でした。唯一残念だったのは、トイレ事情が変わってなかったこと。
＝終り＝

【K.M記】

2017春の黄土高原スタディツアー3日目。「ついに植樹だ」と少しワクワクしながら起床。私は昨年に続き2回目の参加でしたが、昨年の大同ではあまり植樹らしい植樹ができなかったため、今回は新たな土地（永寧寨村）での活動の始まりに携われることをとても誇らしく思います。

実際の現場に到着すると、改めて中国という広大な場所に圧倒されるとともに、何か言葉には表せない自然の力なのか、巨大な力を感じました。

このような土地で25年以上活動を継続しているGENさんに改めて敬意を表したいと思いました。

そして式典の後、植樹がスタート。斜面での作業に苦戦しながらも、心地よい汗をかくことができました。いっしょにツアーに参加している大先輩方の軽快な動きに感心するとともに、日頃の運動不足を露呈してしまいました。

作業中、苗木のカバーを外す外さないで現地の方と意見が分かれしました。これも国際協力の難しさなのだなど実感した一幕でした。

数年後、数十年後、この土地がどんな姿になっているのか、今から楽しみであります。

お昼は永寧寨村でおもてなしをいただきました。社長の王さんと昼から白酒で乾杯し交流を深めました。陽気だけれども、気配りの素晴らしい方だと思いました。「酒」というコミュニケーションツールは全世界共通だなど改めて実感しました。

午後は柏樹郷中心校で交流会です。昨年参加したツアーでも小学校訪問はとても印象に残っており、今回も楽しみにしていました。

迎えてくれた子どもたちの屈託のない笑顔と澄んだ瞳は、これも全世界共通で素晴らしいものです。心が洗われた気がしました。また彼ら彼女らからプレゼントしてもらった絵は三者三様どれも个性的で独創的で、物にあふれていない環境だからこそ感性が磨かれている気がしました。

子どもたちに少しでも日本という国を身近に感じてもらえていたら幸いです。

夜は連日、参加者のみなさんと交流を深め、とても充実した1日になりました。

明日の植樹もはりきって臨みたいと思います。

【M.S 記】

9:30 出発。柏樹郷永寧寨の南に位置する西山へ。蔚県の県庁所在地の街から東南方向へ地勢は次第に高くなり永寧寨の中心部の住宅集中地区は急峻な山なみのすそにあり、その細い道を通り抜け、そのまま登坂。車は切り開かれた山道のガレキを踏みつけるようかなりの角度をどんどん登った。山にはすでに植えられた松の苗木が（中程までは枯草の中に）点々と見え、上方部では枯草もまばらだが、現地の農民たちにより、これまでに植林された松が活着しているのが広範囲に見られ、現地の今までの取組みは半端なものではないことが察せられた。後で判ったが、蔚県恵農商貿有限公司という県の産業（経済）振興のため幅広く活発に活動している事業体があり、造林、養殖も力を注いできており、その実績の証しが眼にした立派な植林の実態であった。今度の（これからの）GEN の取組の活動のティアップ相手にもこの公司がなっており、本日以後の植林地も、これまで公司が植えてきた山の続きの地である。

車は、山なみの一点の三叉路のちょっとした停車スポットで停車し、私たちがここで下車し、準備されていた白大理石製の記念碑（日中青年の緑化共同事業の）建立式が行なわれた（10:30）。碑面の表にはこの事業に関与する組織、裏面には簡明に、事業主旨、目的を刻んでいる。

中日青年河北省蔚県生態緑化示範林

主管単位 共青団中央全国青聯

援建単位 GEN（日本緑色地球ネットワーク）

承建単位 河北省青年聯合会、蔚県林業局、共青団蔚県委員会、蔚県恵農商貿有限公司

その後植林を行なうはずなのだが肝心の苗木が未着で、30分も待って11時頃になってようやく植樹作業に入れた。新たに造られたブルドーザーの通れるような道の上・下に農民たちによりすでに簡単に掘られた穴に苗木を運び、穴をよりしっかりと掘り、植えた後、根元の保水土手を土盛りするのである。現地の農民も30名ほど参加しており、当方26名と合わせ、約60名で12:00までおよそ1時間の作業、約300本(?)の植え付け。

12:30 昼食。蔚県恵農商貿有限公司事務所食堂。食べ物のメニューはホテルの場合と似たものであるが、味はけっこう濃味で、白酒を飲む人びとのテーブルが設けられ、昼食ながら、他人が心配するほど盛り上がっていた一後の小学校訪問、交流に差し支えねば良いが（結果、交流時に眼気に勝てない人がいた＝残念!）。食後14:30まで休息。

14:30 出発、中心小学校訪問、交流。5年生、ピオニールの人（当方の団員と対になるように生

徒数が選ばれていた。男・女ほぼ同数。

緑化への共同取組の意義、GENの取組実績紹介。本日の小学生との交流を通じて、学び得ることを日中双方の挨拶として強調。小学生より自分の前にすわった訪問日本人へ、赤の三角布（ピオニールのネクタイ）をプレゼントし、首に結びつけてくれ、後「緑の庭園」をテーマにした学生一人ひとりが書いた素画（エンピツ画）にGEN側がプレゼントした「色インキペン」で色付けを日中協働で完成させて、子どもの発想を美しいものに仕上げ、それも日本側訪問者にプレゼントしてくれた。子どもたちが自分の記念にするのだとばかり思っていたので、驚き、感動した。

昔、文革の頃、小学校参観したことがあって、そんな時の印象が残っていたので、今日の訪問は大きく異なっていた。今日の内容・進め方がどのように決定されたのか知りたい。この違いは単なる時の変化ではなく、中国の「教育の変化」を示していると思うし、しかも「北京や上海の学校」ではなく、「蔚県の小学校でのこと」なのであるから。

その後は音楽（歌）の交流だったが、「ラップ（大笑江湖）」や「手話ダンス（朋友）」も演じられたのにはびっくりであった。最後には「ハグ」をしあつてのお別れであり、小学生たちとの合同写真撮影まで“大人や老人”も本当に楽しい交流であったと思われる。

● 4月11日（火）晴れ 風あり

【M.M記】

久しぶりに青い晴空の朝を迎えました。ただし強風。昨日と同じ山の上で植林作業。壮大な自然の中で自分たちのやっている仕事が、壮大なプロジェクトに感じられます。るいると連なる山々が、数年後、木々の茂る山に変わってゆくのですね。永寧寨合作社にて、昨日と同じようにおいしい昼食をいただく。台所で働く人たちが何回もおかわりを盛上げてくれて、感謝感謝でいただく。村のたたずまいは静かで落ち着いていて、気に入りました。これからこの村の山で植林し、この建物で食事し、この村の人たちにお世話になる、それがまた10年、20年と続くはず、と思うと、せいっぱい村の人たちと仲良くなりたと思いました。Tさんはそれがとても自然にできるんですね。植林のときも、山の中で村のおじいちゃんにニコニコと「ニーハオ」とあいさつし、にこやかにおしゃべりし……、言葉ができる以上の生来のやさしさ、というか、人づきあいの悪い私などから見ると人徳と思えてしまいます。見習わなくては。

特に、この蔚県ではじめてのGENの活動、日中友好には若い人たちが大活躍していたように思います。ありがたいことです。

午後は飛狐峪観光。風の寒さにふるえながら、奇岩の谷を見てまわりました。谷の奥に、1938年11月17日、日本の輸送兵が八路軍にこの谷で敗北したところがあります。碑が立っていますが、戦は、どちらにとっても不幸なことです。今も、世界で内戦や占領や、いろいろな戦いがありますが、GENの活動が、人を仲良くさせるもので、うれしいです。昨日小学校で、向き合って座った女の子も「大きくなったら、日本に、あなたをたずねに行きます」と言っていました。それが実現するかどうかは大事でなくて、そうやって、小さい心によその国のおばあちゃんをしたう気持ちがあること、そんな小さな芽がうれしいのです。私も、せいっぱい、張智雯をハグしてわかれしました。

夜は、蔚県最後の夕食です。ツアーの成功を祝い、また、初めて出会った人たちとの別れを惜しみ、再会を祈り合いました。

【J.T記】

晴れた！ 昨日まではパツとしない天気だったため、青空が見えてとても嬉しい。

北京に留学中も青空を見てウキウキしたことを思い出す。北京では強い風が吹いた次の日は腫

れていた。

今日は昨日の続きで植林をした。広い大地に木を植える。みながイメージするであろう GEN の植林活動ができたと思う。宋亜男さんは1,000本植えたと言うが、東川さんとそれほどは植えていないだろうと話した。

お昼もおいしかった。紅焼肉とまんとうの組み合わせが最高！ただ、頭の片隅で、昨日の子どもが肉は食べないと言っていたのを思い出す。申し訳ない気持ちになる。

午後はメガソーラーを見て、飛狐峪へ行く。中国が太陽光、風力に力を入れていること、日本人は意外と知らない。緑化のスピードもいまや世界一である（数年前の数字なのでもしかして変わっているかもしれないが、世界のトップクラスであることは間違いない）。

飛狐峪では、まさかの通訳をまかされてしまった。適当に会話はできるものの、正確に聞き取るのは難しい。崔さんの偉大さを感じた。

その後、剪紙体験。ナイフから手作り。いかに時間がかかるものかを実感。

そして、今日のメインイベントは王メイリー社長との飲み会。飲んで踊って（本当に踊った）盛り上がる。部屋が分かれてしまい、この雰囲気のみなで味わえなかったのが少し残念。GENのツアーで飲みつぶれなかったのは初めてかもしれない。僕も成長した！ということだろうか。

今は8:07。これ以上書くと朝ごはんを食べる時間がなくなりそうである。

社会人になっても参加できてよかった。

今後も会社を説得して継続して参加したい。

謝謝！！

【C.S記】

「中国は黄砂がひどくて青空が見れないのでは…」と書いていたのですが、その考えを吹き飛ばすほど、雲ひとつない青空でした。朝、東川さんとHさんと一緒に、近くの公園へ散歩に行ってきました。朝7時にもかかわらず、公園では多くの老若男女が運動していました。健康器具で少し体を温めた後、バドミントンをしました。もちろん、ラケットを日本から持ってきたものではありません。おじさんから（半ば強引に…）借りて、打ち合いをしました。朝から気持ちも体もほかほかです。

本日は、植樹2日目。昨日とは違い、天気は良いのですが風が強く、砂が体中にあたります。風に飛ばされそうになりながら、合計10本ほどのマツを植えました。植樹した場所は、標高約1,200mと聞きましたが、そこから見る景色はとても壮大でした。

昼食後、飛狐峪に行きました。飛狐峪に近くにつれ、だんだんと景色が変わっていき、ギザギザの岩、そり立つ岩壁は迫力がありました。完全にその山々に囲まれた時には鳥肌がたちました。かつて、日本軍も通った場所でもあります。今回初めて中国に来ましたが、日本と中国が交戦した跡を訪れ、感慨深い気持ちになりました。

今晚は、今回の緑化プロジェクトに協力してくださっている蔚県の社長さんを交えての宴会。社長の娘さんと私が同い年であり、親近感をもって接してくださいました。「カンペイ」の時、さすがにアルコール度数50度を超える白酒を一気飲みできないので、社長さんには目をつむってもらい、少しずつ飲むことを許してくれました。しかし、それは最初のみ。宴会のムードはヒートアップしていき、私もつられてヒートアップ。白酒をごくごく飲んでしまいました。その末路はみなさんご存知だと思いますので、割愛いたしますが、東川さん、Tさん、Mさん、Hさん、ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。そしてありがとうございます。しっちゃかめっちゃかな夜となりましたが、本当に楽しかったです。

【T. B 記】

本日は2日目の植林で、みな張り切っている様子です。植林現場に到着すると、昨日より風が強く、やや肌寒かったです。空は晴れ渡っていました。地元の人たちは朝7時から夕方6時まで、昼に2～3時間の休憩をはさんで作業するそうです。日本側は作業時間が昨日1時間、本日2時間の計3時間でやや短く、申し訳ない気もします。1日の労賃は男性80元女性60元と、この土地の件費の安さを感じました。

みなで協力しあいながら、1株ずつを植えていきます。サントリーやイオン労働組合の方の声かけ、仕切り、心配りには感服いたしました。壮大な山々と段々畑の光景を見ていると、中国に来ていることを実感します。気になったのは、中国の現地の植え方と、日本側の手法が違うこと。苗を包む黒い袋をとらないのが中国流、とるのが日本流のようです。作業中、中国の方から「これはとらなくていい」と言われましたが、高見さんたちからは「試験した結果、とったほうが定植率がいい」とうかがっていたので、私はとるほうを選択しました。受け入れる現地と、支援するドナー側との共通認識をつくることの難しさを感じます。説明しても地元の人たちが行動を変えるのは難しいようですが、長期的にはそろったほうがいいように感じました。中国側の話だと、日本人が今日植えたのは約800～1000本だそうです。しかし、これは多すぎて、作業員20人×(1時間に6本)×2時間=240本がせいぜいだと思います。なお苗木は1株1.5元だそうです。これは自家製でして、外で買うと3元くらいになるそうです。植え終わった斜面を見ていると、達成感を感じました。

漢方薬が専門のTさんは、地元のおばちゃんと仲良くなって、さすがでした。途中、村の人たちが目を輝かせていたのは、日本のコインを見た時のこと。特に5円玉が人気のような様子でした。穴開きが珍しいんですね。この場所で松が立派に成長したのをまた見るのが楽しみです。また、私は第1回目の参加なのですが、最初に植え方講座があってもいいと思いました。やりながら「幹が2本あるのは競合するので良くない」「幹を持たず下を持つ」「黒い袋をとる」「水がたまりやすいよう、やや凹地をつくる」などを聞いたからです。

作業を終えて帰る途中、高見さんの発案で高速道路の建設現場とソーラーパネルを見学しました。農地の間に直線に引かれた高速道路は、来年にも完成すること。中国の実行力のすごさを感じました。

昼食は恵農会社で食べます。私は昨日忘れた日本からの土産を渡すため、学校へ再び向かいました。昨日お世話になった子に再び会えて嬉しかったです。しかし、昼時に彼らが食べていたのは、カップラーメン。同行の現地側の人いわく、給食が好きでない子は、カップ麺を自分で好んで食べるとのこと。育ち盛りの子たちの健康状態が心配になりました。教室には黒板にPCスクリーンが埋め込まれ、英語の授業もありますが、トイレは汚いニーハオトイレでした。一時の交流だけでなく、衛生、栄養面での協力はできないのでしょうか。

昼食は遅れての合流だったため、中国側メンバーとの席での食事となりました。肉ありビールあり白酒ありで、学校の現状とは対照的なおもてなしに複雑な思いがしました。恵農会社の人たちは、「20、30代は都会に出稼ぎに行っていて村にはいない」「田舎の高考(大学入試)は都会に比べて難しいので不公平だ」と言っていました。

この地域は石炭の産地ですが、最近では過剰生産のため産出削減が求められており、景気は良くないそうです。旅行業など新たな産業育成が求められていて、今日のスタディツアーもその一つとして期待されているのかもしれませんが。中国の農村の置かれた現状の難しさをかいま見た気がしました。

午後は自然が壮大な飛狐峪へ。巨大な岩が直立した「一柱香」、放たれた矢が通ったという「箭眼」の穴、仙人が住むという「八仙洞」などです。ガイド氏いわく、全て雨風の浸食でできたそ

うですが、八仙洞はやや人工的な気がしました。印象に残ったのは、援軍にきた日本軍 400 人余りを、八路軍が待ち伏せ攻撃して全滅させたという「明鋪阻撃戦遺址」です。立派な碑もできていました。1938 年 11 月 17 日、およそ 80 年前にこの山肌で日本軍と八路軍が戦い、現在は近くの斜面で日本と中国が一緒に苗を植えている。不思議な因果を感じました。

その後、周さんの経営する切り絵の店の見学へ。繊細な線に綺麗な色使いが素敵でした。体験もできたのは貴重でした。冬季五輪のモチーフは 30 万人民币元という力作でした。習近平国家主席、毛沢東主席の切り絵もあり、国情を感じました。みな、お土産を買っていて、自分も買ってよかったです。天安門広場の土産物屋よりは安いと感じました。

最後の晚餐は白酒の量が多く、盛り上がりました。植林業者の社長も来ていて、みなで「北国之春」「大海」を歌う一幕もありました。抱き合う者、グラスを勢い余り割る者、踊る者、さまざまです。最後に社長が「中国と日本は歴史、政治の問題はあるが、庶民は関係のないこと。こうして一緒に木を植えて仲良くしていける」と言っていたのが印象的でした。その勢いで、社長は日本人数人のほっぺたにキスをして回っていました。??の柔らかさは忘れられません。送迎する際、一部で共青团書記と社長の胴上げを試みましたが、重いからか、酔いのせいを持ち上げられませんでした。みなさん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

● 4 月 12 日（水）雲ひとつない快晴

【N.M 記】

GEN さんのスタディツアーに初めて参加させていただきました。蔚県はもちろんのこと、中国に来ること自体が初めてで、中国語もわからず、慣れないことばかりでした。しかし、通訳の崔さんをはじめ蔚県の受入れスタッフや GEN のスタッフのみなさん、そして参加者の中でも中国語に堪能な方のおかげで、広い中国の一端を見て感じて味わって楽しむことができました。

複数回中国に来られていたり、何度もツアーに参加されている方々と違って、比較する基準を特に持っていないため、初めて中国を訪れた感想や今後役に立つかもしれないことをいくつか箇条書きで記します。

(1) 訪中前のイメージとのギャップ

正直に言って、今回来るまでは、水や空気が汚いのでは？ 食事口にも合わないのでは？と良いイメージがあまりなかったのですが、良いほうにほとんど裏切られました。蔚県や山の作業では確かにホコリっぽかったり、口の中に砂が入ったりしましたが、呼吸をためらうほど汚れているようには感じられず、また水についてもバスの中やホテルで配られるミネラルウォーターを飲んでいけば、腹の調子を崩すこともありませんでした。

食後の蔚県の方は特に味付けが良く、思ったよりたくさん食べてしまいました。太るかと思ったのですが、野菜も多く、（体重は測っていませんが）それほど太ったような気はしません。

(2) 意外なコミュニケーションツール

植樹作業の帰り道に、たまたま中国語のわからない参加者だけで地元から作業に来ていた方々とお金の交換をしようという流れになり、特に日本の硬貨が珍しかったようで、その場にいた地元の方 20 人近くが一斉に集ってきて大にぎわいになりました。あまり難しい話はできないので、これは銅で作られているとか、アルミでできているとか、筆談と適当な英語で伝えました。後から聞くと、特に穴あきのコインが珍しいのだそう。次回からツアーに参加される方は、いつでもプレゼントできるように、日本のコインは多めに持ち歩いてくださいね（笑）。

(3) 終わりに

久しぶりの手書きで、日誌などきちんと書けるのかとビビっていましたが、東川さんのおっしゃる通り、書きはじめると筆が勝手に進んでしまいます。まとまらない文章ですみませんが、感

じたままを書きました。最後に個人的に嬉しかったのは、私の名前（直樹）が中国語では植樹と音が同じだと教えてもらったことです。確かに、木へんがあるかないかの違いですが、今までそんなことは考えもしませんでした。また、次の機会に名前に恥じない植樹ができればと思います。

GENと現地のスタッフ、通訳さん、参加者の皆さんには本当にお世話になりました。ありがとうございます。

※中国の再生可能エネルギーについて、後日メールで情報提供したいと思います。

【H. H 記】

朝から蔚県の旧市街地観光にバスで出発。少し走ると昔なつかしい屋台、露天商。とうふのくせい、農作業で使う鍬やかま、ほうき等を所せましと道ばたに並べて売っていました。

町全体が活気に満ちあふれている中を、我々のバスは縫うように走る。そして城内観光。



左上) 蔚州署、明代に築かれた蔚州の役所。近年に復元されています。

左中) 鼓楼から。向こう正面が南の城門だそうです。

左下) 玉皇閣。明代に創建され、現在修復中。修復中ですが城壁に上ることはでき、上って展望することができました。

上) 南安寺塔。13層の塔。

午前中で旧市街地観光を終え、昼からバスで一路北京へ。途中、ポリスチェックのところがあり、パスポートを各自提出とのことでしたが、なぜか提示なしで無事通過できました。一路北京に進む。今夜は北京で1泊、明日は帰国です。

【J.N記】

中国は三度目です。Mさんにさそわれ、はじめは何のことか？ とりあえず行ってみっか！ 資料を見て何か面白そうと思いはじめていました。深い考えもなく参加、体験もいくつかあり、良かったです。

朝食、野菜が中心の粟雑炊にゆで玉子を入れ、ゆで玉子雑炊です。ホテルの人朝礼あり。

8:35 ホテル出発。1号車、2号車で蔚州古城へ。8:50 着。釈迦寺・天王殿・大雄宝殿・拈華微笑は組子天井がみごと。

9:30 古い役所見学。蔚州署・親民堂・魁星楼。全国重点文物。見ためは3階だが実は5階なのです。紅色文化展館は無上土、オエライサン知事のお住まい。鼓楼棟札は3枚、タル木は丸のまま、塀はリップ。



ここから北京まで220km。

釈迦寺、蔚州署、靈岩寺、鼓楼、玉皇閣と見学し、12:07 ホテルへ。ホテルで昼食。1:55 北京にむけ出発。2:13 高速。ガードレールは緑色、脇はポプラ並木。5:00 四号線に入る。けっこう渋滞。6:30 ホテルへ。

色々あり、黄土高原スタディツアー後1日。楽しく過ごさせていただきありがとうございます。又会えることをたのしみに頑張っていきたいと思います。

【Y.N記】

昨日に続き、今日も朝から好天。

朝食後、蔚県の蔚州古城はじめ旧市街地を見学。釈迦寺をはじめ南安寺、靈岩寺など巡る。

中国のお寺は河北省だけなのか、他の省もそうなのか分からないが、意外と威厳がないというか、日本の寺に比べ現世利益を求めている感じが強いように思う。

特に仏像などは道教の影響が強いのか、あまり有難みを感じない。むしろお寺の前でたむろしている老人たちのほうが悠久の流れを感じさせる顔つきをしている。見た目よりは若いかもしれないが、70歳以上と思われるおじいさんを見ていると「抗日戦争から国共内戦、建国後の大躍進、文化大革命、改革開放の大荒波を乗り越えてきたんだ」と思うと「ご苦労さまでした」と自然と頭が下がる。

午後は昼食後、13:50 に北京に向け出発。18:30 に北京のホテルに到着。

ホテルの側の飯店で19:30 前後から夕食。蔚県の食事と種類は似ているようで少し違ったように思う。ただ私は味音痴なのでその辺のことはよく分からない。たださすが食王国。蔚県のものも含めすべてが美味しい。

明日もう帰るのかと思うと、なんとなくさびしい。

ここまで来て天安門広場を見ずに帰るのは画竜点睛を欠きなんとも悔しい。

● 4月13日（木）春霞のような快晴

【S.K記】

今回の黄土高原スタディツアーは私にとって9回目の訪問で、大同は実に15年にわたって訪問した懐かしい地でありました。もう訪れる機会はないのかなとおもっていましたが事務局の話ですと今後も大同との関係は持ち、蔚県へのツアーのなかで大同への訪問を入れることも考えているとのことではとほっとする。同時に今回第1回目である新しいプロジェクト河北省張家口市蔚県のスタディツアーは、どんなところか、どんな人たちがいるのか興味があって参加しました。

以下、蔚県の町、柏樹郷永寧寨村について感じたこと、今後の緑の地球ネットワークの蔚県への植樹活動の取り組み方として現地を見、体験して感じたことを記してみたい。

①河北省張家口市蔚県について

張家口市は2022年冬季オリンピックの会場の一部になる地であり蔚県についてもこれを機会に県を活性化するには現在の切り絵産業中心の地から観光中心、それも海外からの顧客を目的にした町に変革する必要があるでしょう。

実際蔚県には我々も訪問した蔚県博物館、暖泉鎮、飛狐峪、蔚州古城等の観光資源があり、修理活動も各地で行われていますが、オリンピックまでに間に合うようには思われません。また観光地にするためには町の美化（現在町の道路際、飛狐峪の景勝地の道路沿いはゴミ捨て場）、県民のマナー改善に取り組まなければいけないと思います。

いずれにせよ蔚県はこれからの町で、10年後、20年後には世界から観光客をよべる観光地になっているでしょう。

②緑の地球ネットワーク蔚県植樹活動の取り組み方

今回のツアーは第1回目であり、柏樹郷の植栽活動に補助的に参加しただけですが、大同とは技術的にかなり差があると思います。

ゆえにこれから続けるうえでどのように進めるのか現地と協議のうえはつきり方針を決める必要があるのではないのでしょうか。大同で行ったように松だけではなくどんな樹種が柏樹郷の土壤に合うのか、どんな植え方をすれば活着率が向上するのか、植樹後の水やりはどうするのか（現在は植えばなしの感じ）の技術的な指導は必要でないのか先方が必要としないのか、単に毎回補助的ツアーで終わるのか。また地球環境林や小学校付属果樹園、独自の緑化協力拠点をもつのかどうか。もしこれらを蔚県（柏樹郷）でやろうとすれば人と資金と時間が必要となりますがいま推進されている人材では年齢的にむずかしいのではないのでしょうか。若い人材が必要です。

これら今後の問題を含めて蔚県柏樹郷の植樹活動プロジェクトを大同のように何年後（何十年後）になるかわかりませんが実のある活動で終わることを願いたいと思います。（以上）

【K. K 記】

8日からの旅もいよいよ最終日を迎え、後は北京空港から深圳航空で帰国するだけになった。…と思っていたが、最後に思いがけないトラブルが発生した。このことは後述する。

前夜から北京の富駅時尚酒店というホテルに宿泊した。このホテルのセキュリティーがかなり厳重で、ルームキーを持たないとエレベータが動かない。階段を探すと、エレベータの向かいに階段室があり、扉はあるが自由に使えるように思えた。

ところが、早朝に階段を下りると、1階のロビーに出る扉が開かない。仕方なく2階まで上ってエレベータで降りようとするが、ルームキーを持たずに出てきたので動かない。部屋では同室者が未だ睡眠中なので、どうしたものかと思いながら、もう一度1階に降りてドアをノックしてみるが反応がない。ふと左の壁を見るとドアを開けるボタンがあり、これで出ることができた。ちなみにこの扉はロビー側からは開けられないようになっているので、キーを持たずに出た私は皆が起きてくるまでは3階の部屋の前にも戻れない状態だった。

今回のツアーでは「一人で出歩くな」と言われたが、朝早く目が覚めた私は、10日から早朝一人で町中へ抜け出した（指示を守らないでごめんなさい）。従来の大同のホテルではいつでも外出できたのだが、蔚県のホテルには深夜から早朝まで鍵がかかっている出られない。それで9日は「指示」を守って早朝散歩を自粛したが、10日は6時にフロントで寝ていた警備員に開けてもらい、11日は5時に偶然目を覚ました警備員のおかげで出ることができたのである。

13日はカササギの写真を撮ろうと思ったのだが、高い建物の屋根などにしか見つけることがで

きず、あまり良い写真は撮れなかった。それでも日の出や水に写る月、水路沿いに植えられた桃の花などを楽しむことができたので、良しとしておこう。

バイキング式の朝食を済ませ、先に帰国したメンバーと残留するメンバーを除いて15名が空港行きのバスに乗り、9時にホテルを出た。途中でスーパーマーケットに立ち寄って11時に空港に到着し、成田行きと関空行きのメンバーが別れて搭乗手続きを済ませた。関空組のメンバーは、13時35分発だったが、毎日の食事が十分だったせいもあり、機内食を当てにして昼食を取らずに出国手続きを済ませて一緒に搭乗口で待機していた。

ところが、出発時間が近付いても全く案内がない。聞くと出発は17時くらいになると言う。前述のトラブル発生である。少し詳しく書いておこう。

機内食にありつきの遅れることになったので、数人が昼食を購入に出かけたが、その直後に弁当が配られるという情報を前中先生が持って来た。すぐに出かけた者を追いかけたが、彼らはもうカップラーメンを買って帰ってくるころだった。弁当を貰いに行くと、配られたのは円筒型にパッキングされたビスケットと水 350ml だけのケチ臭い対応だった。前述の数人は、北京空港でカップラーメンを購入して食べるという貴重な体験をすることができたようだ。

帰りが遅れる旨をカミさんにメールすると、その後の返信で、マイチケットの藤原さんから連絡があって、空港の定期点検のために飛行機の出発が遅れているとのことだった。帰宅後に詳しく聞くと、全ての飛行機が遅れて順番に出発していたそうである。予期せぬ事態で遅れるならともかく、定期点検なら事前に分かるはずだし、発着時間に影響しないように計画することもできるのではないかと思うが、それは点検する人の都合より利用者の都合を優先する手前勝手な考え方でもあるのだろうか。それにしても、事前に情報提供くらいはすべきだと思うところである。

さて、情報提供の不十分さは、いろんな混乱を引き起こすことになり、我らの東川事務局長が空港の放送に美声を流すことになったのである。経緯は次のとおりである。

出発は17時以降とのことだったので、乗客の多くは環境の良くない1階の搭乗受付を避けて2階で過ごしていたが、16時過ぎに搭乗が始まった。しかし、その連絡は上手く伝えられなかった。

私たちは、東川さんが時々1階をのぞいていたので、少し遅れてではあるが事態を知ることができ、急いで階段を降りて飛行機に向かうバスに乗ろうとした。ところが、他に3人の日本人乗客が来ておらず、航空会社が放送で呼び出そうとしたが、日本人の名前を読める者が居ないとのことで、急遽東川さんが無償でアナウンス嬢を引き受けることになったのである。

結局、遅れてきた中国人も居て、全員が飛行機に搭乗できたのは16時30分くらいだった。飛行機が離陸したのは17時29分（中国時間）で、関空への着陸は20時50分（日本時間）だから、時差を考えれば実質の飛行時間は約2時間20分ということになる。通常の発着時間表示では3時間20分くらいの所要時間になっているから、搭乗から離陸までの時間を考えてもかなり早く飛んだように思える。おかげで23時過ぎには何とか帰宅することができた。

新たな地での緑化協力は、順調に始めることができたように思う。森林再生により生態系の多様性を復元することは望ましいことに違いない。地域の人々との交流による異文化の相互理解も進めることができるだろう。GENの活動は、それに貢献しているのだろう。

がしかし、人々の活動は、相変わらず環境への負荷を増大させる「経済成長」の方向にあり、多くの人がそれを求めていることにも変わらない。環境への負荷を減少させる暮らしは、残念ながら未だ見えて来ない。

新たな環境技術による環境対策は、検証が必要である。官庁ダム周辺にたくさんの風車が設置されているが、回っているのは少なかった。山上の風車は稼働している割合が高いように思えた。エネルギーの収支はどうかの気がなるところである。メガソーラーは、大きな面積を占有するが、日中の限られた時間しか発電できない。やはり収支が気になるところである。

こんな感想を持って、帰ってきた。

【T.M記】

A班、最後の記入者としての特権を生かして、また事務所への近さから帰国後、少し書かせていただいています。

I ≧ 4月13日(木)の行動日誌

- ①朝食後、昨夜の夕食会場へ行く途中の川沿いをAさん・Nさんと散歩した。濃い赤とピンクの花を枝別に咲かせている木と、両方が混じって咲いている木があり、帰って前中先生に聞くと、交配の仕方で違ってくるとのこと。帰国したら「キメラ」で、検索しよう。
ホテルの近くまで帰ってきたら、第一釣り人がいた。ポリバケツの中にハヤのようなのが3匹と、フナのようなのを1匹釣っていた。見ていたら、フナを釣り上げた。都会の真ん中に水草が多く自生し、小魚がいるとは思ってもよらなかった光景である。ここは北京だ。
- ②朝9時にホテルを出発し、カルフルに向かう。北京では一時自転車をあまり見かけなかったが、今回はけっこう見かけた。昔のガッチリしたものではなく、今風のマウンテンバイク風だったり、ママチャリ風だったり、荷台もなく、いずれもエコの代表格という感じである。かつての自転車の大水が車にとって変わられ、今、エコで自転車が増えようとしている。約40年のスパンである。物事を見るのに人間の一生で40年は長い。そういえば散歩の時に見た自転車のタイヤは、固いゴムで円周に沿って二重に穴があげられている、生まれて初めて見る珍妙なタイヤだった。クッション替わりだろうが、乗り心地と耐久性はどんなものだろうか？
9時30分頃、「朝日環境」という小さな車の兄貴は、器用に運転しながら、左手の長いトング(昔用語では火ばさみ)で煙草の吸殻を拾い、後部の屑籠にいれている。少しずつ街をきれいにというのは理解できるが、ゴミをどこでもかまわず捨てることのないようにするのが先決だ。
フランス系スーパーのカルフルをでて、一路、空港へ向かうが、渋滞の中を柳の産毛のような種が、まるで吹雪のように舞い散る。
- ③11時頃空港へ着き、荷物を預け、顔がラグビーの五郎丸選手に似ているということで、通訳の崔さんと五郎丸ポーズの記念写真を撮り、お別れする。崔さんには本当にお世話になった。的確な通訳と、いつどんな時も笑顔を絶やさず、夜の歩きにも一切飲まずに付き合ってください、安全の確保を最優先してください。また、永寧塞の植林地では素手でスコップを握って苗木を植えておられた。五郎丸ポーズの行く先は、人の心を熱くさせる『友好』であった。崔さん、本当にありがとうございました。
- ④11時40分頃、イミグレを通り、カメラ・コイン入れを出し、Gパンのベルトを外し、それでも赤ランプ。帽子を取ったりして全身をこれでもかというくらいの検査を受け、セキュリティーの厳しさを実感させられた。
- ⑤午後0時半頃E57ゲート待合所で、日誌の原稿を書くことにする。
(ここからは、こういうこともあるよー、という観点から、リアルタイムの実況中継とさせていただきます。苦笑しながら書いています。)
- * P1:35 ゲートで待つこと1時間。出発時刻なのにまだバスはこない。東川さんが受付の人に聞くと、機体はあるが、それ以上のことはわからない、とのこと。再び階上の待合所で待つ。マイクでの説明もなし。やっと、大陸の時間になってきたと、Kさんとお互いに嬉しそうに話をする。
- * P2:15 下に降りると、受付カウンターのお姉さんは欠伸をしている。かと思えばスマホをいじっている。聞きに来る客に、眼は「そう急ぐな」と言っている。でも聞きにくる客は少しずつ増えた。バス乗り場の外を柳の種が真っ白シロスケとなってゆっくり流されて行く。まるでアニメの世界にいるようだ。しかし妖精は出ない。バスは来ない。

- * P2:40 受付カウンターメンバーには補給用のジュースが届く。受付の兄貴はそれを飲みだした。こっちには情報も差し入れもないのか！ アナウンス全く無し。
- * P2:45 バスが2台来て止まった。しかしアナウンスはない。中国語の話せる人の情報では、今のところ午後5時前後とのことである。
- * P2:50 おなかもすいてきたので、100メートルかもう少しくらい戻ったところの売店でカップラーメン9元を買う。
- * P3:00 食事が配られるとの情報で、受付に行くと、チケットを示しただけで水とクッキーをくれた。食事ではなく、ガス抜きクッキーだ。仕方なく、カップラーメンを食べることにして、熱湯コーナーに行く。空港でカップラーメンをすすめる体験など滅多にできるものではないので、写真も撮ってもらった。
- * P3:15 メモを取りながら、だんだん面白くなってくる事態を楽しむことにする。只、明日、仕事がありませんようにと祈らねばならない。この調子では、家に着くのは夜11時頃となりそう。
- * P3:42 少しずつ日は傾き、他の便のアナウンスは続く。我々には、次は何をくれるのだろう。毛布かな。
- * P3:45 階下に行くとカウンターの周りに人が集まっている。どうやら4:25のモスクワ行きの人たちのようだ。金髪のお姐さんが、座り込んで靴下をなおしている。黒いロングコートの鷲鼻のおばさんは半分口を開けて「待つのも長いわねえ」という顔をしている。半袖にふんわか neckrest を首に巻きつけ、ところどころにタトゥーの見える兄貴は片足をつま先だて、スーツケースに体を預け、なんとはなしのポージング。本当の金髪の人たちがいると、本当にロシアに行くのだという感じが伝わってくる。
- 退屈まぎれに人の描写をするが、又吉直樹にはかなわない。50メートルに行くのに、原稿用紙1枚分のボキャブラリーをと思うが、繊細さもないし、ムリだ。
- * P4:00 突然、ボーディングと東川さんから連絡。あわてていくと、5人はチケットカウンターを通れたが、後が続いて来ない。東川さんから後のメンバーが「待った」をくらっている。何事だ？ どうした？
- 受付の担当者が、あと3人の日本人が不明だ、ということで、日本語の呼び方で東川さんにアナウンスを依頼したのだそう。又、又、面白い。バス前の私たちには東川さんのアナウンスは聞こえなかったが、北京空港でアナウンスとは、ありえない体験である。東川さん、シンセン航空からバイト料もらえるのかな？ GENだからやはり、ボランティアかな。
- * P4:30 タラップで機内へ。階段を昇ると昨夏が懐かしく思い出される。
- あの折、Iさんの介助を担当したので、イミグレもセキュリティーチェックも全く別ルートで、がっちりした体格の女性担当者は飛行機の側まで車いすを押して来てくれた。最後にIさんは普段は荷物用のリフトで機内に上げてもらった。
- 今回は、乗客が乗り終わると、すぐにタラップが外された。
- 早く飛べ！ 1時半と思って、外の景色が楽しめると思い、窓際を取ったのだから。明るいうちに早く飛べ！
- * P5:28 確認できただけでも着陸や離陸する飛行機を10機近く待ち、4時間遅れで離陸。普通なら、もう大阪に近づいているはずだ。
- 機内食でチキンか、魚か、聞いてきたので、チキンライスかから揚げのようなものと思いきやチキンと言ったら、チキン焼きそばだった。魚やきそばってあるのかなー？この変化球め。
- あー、楽しみは疲れることでもあるな。（ここまで中国時間）
- （ここから日本時間）
- * P8:37 日誌の原稿を書いていて、ふと下をみたら何と「翼よ、あれが明石海峡大橋の灯だ」。

それから六甲沖から西宮沖あたりで右旋回し、関空のLCC用の滑走路に着陸した。時間を見ると実質2時間半くらいのフライト。意外と早く飛べたな。

* P8:55 関空着

* P10:40 家 着

(以上、現場からの中継でした。一旦、担当者?へ返しまーす)

II ≫新天地 蔚県での植林について

今回で4回目の植林ツアーである。(10年前は、まさか自分が中国の同じようなところに何度も行くとは、思ってもみなかった)

新しい場所での記念すべき第1回の植林ということで、昨夏に続き参加することにした。昨夏、北京から大同市靈丘県に入る高速道路の終点は『結束』そしてその横にアルファベットの小文字で『end』と標識があり、参加初日からGENの25年の様々な歴史と状況をかみしめざるをえなかった。

今回は何枚かの写真しか見ておらず、初めての土地で不安も抱えながらであったが、『打樹花』の動画に魅了され、好奇心をくすぐられ、6日間という旅行の割には、ドでかい旅行カバンに、長靴・作業ズボンを入れ参加した。又、朝晩の気温変化に対応できるように、多めの服を持ち込んだ。

到着早々、打樹花見学が設備点検のためなのか、突如なくなったことが報告され、がっかりしたが、予定とは変更有りのこと。やむを得ない。

3日目(4月11日)4日目(4月12日)と二日間に亘って植林したが、けっこう急こう配の所もあり、又、土も小石混じりなどあり、スコップだけでなく、ツルハシも使ったり、それなりに握力・脚力・登坂力などパワーが必要とされた。個人的には、まだ体力はあったが、坂はきついし、危ないし、風も強く、微粒の土も口の中でジャリジャリしていて、年齢のことや体力を考慮するとあんなものかな、予定していた時間でOKという感じがする。細やかな反省点や留意点、今後の目標などは世話人会に任せるとしても、今後、何回ものリピーターとなると、通訳の人員確保や輸送・食事のことなど検討材料が多いだろうが観光参観部分を削って、もう少し植林をという選択制が取り入れられないだろうか。

今回のツアーには小学校での参観交流、更に昼・夜と現地の受け入れの方々との交流で、今後の展望がそれなりに開けたのではないだろうか。最大のポイントは現地受け入れ側との信頼感と継続性の醸成であろう。サントリーの方々やT君、Sさんをはじめとする、カンペイにぎやか軍団は、あまりアルコールの強くない小生からは、頼もしい限りであった。

今回の受け入れ先は蔚県の共青团と恵豊商貿易有限公司ということだろうが、かつての日本では、農協が今のようなJAバンクでなく、本当に農業をしている人たちの組織であった時を想起させる。大分県の故平松守彦知事が提唱した、一村一品運動。換金作物を作り、生活を豊かにしていく方向性。私の故郷、岡山県真庭市の片田舎で90歳の伯母は懐かしそうに『梅・栗植えてハワイに行こう! あのスローガンは私らも知っとるよ』と。そのさきに、安全・安心の農畜産物で確実に地歩を築いた『伊賀の里 もくもく手作りファーム』の中国版が出来るのかもしれない。私たちはその山林部分のお手伝い。誉である。江戸時代の農政者・二宮尊徳は「経済なき道徳は虚言である。道徳なき経済は犯罪である」と言われたそうだ。経済とは経世済民、そこに住む人たちの生活そのものといえる。その生活の根幹をなす、年間降水量400mm前後は、1800mm前後の私たちより、極めて厳しい状況である。

いくつかのプランが検討されているようだが、実現に向け、一步一步、歩を進めたいものだ。

そして、今回、初めて小学校の参観をさせてもらい、交流を楽しんだが、この後をどうすればよいか、少し悩む状況である。とりあえずは絵を描いてくれた子たちに一緒に撮った写真を送

ることにしようと考えている。

Ⅲ≫ 蔚県植林の付録

① 鐵と打樹花と鉄腕ダッシュ島

② 『森は海の恋人運動・蔚県』 は又の機会にして

③ 平和について

帰国したら、TVは明日にでも北朝鮮との間で戦争が起こりかねない論調のものまであり、付録に追加することにした。

私は年金をもらいながら、大阪港で今少し働いている港湾労働者だ。

かつて大阪港は呉や舞鶴、横須賀のように戦艦や駆逐艦などの軍艦の基地の軍港ではなく、兵員輸送や軍需物資を扱う兵站部軍港として、国内でも最大級の軍港であった。出征兵士に割烹着とタスキで国内最後の湯茶のサービスをして、見送る母たちの、草の根の戦争翼賛体制『国防婦人会』の発祥の地でもある（GEN事務所の近くの現在の港区市岡中学のあたりで発足したようだ）。

私の先輩たちの多くは、先の戦争のために兵士となって中国へ行き、又、港湾の荷役（にやく）作業を行い、そのため、連合国の攻撃も受け、港区は焼け野が原となった。戦争への加害者でもあり、被害者ともなった（今回、飛狐峪の日本軍と八路軍との戦闘の跡を参観したが、中国侵略の反省の場であった）。

こうした反省から、先輩たちは「全日本港湾労働組合」の前身の「大阪港湾労働組合同盟」を結成し、1972年の日中国交回復以前というより、戦後一貫して日中国交回復・友好運動をしてきた。この結果として、私は1978年9月、日中平和友好条約が結ばれるときに3週間「関西港湾労働者代表団」の一員として中国を訪問させてもらった。その時、私は30歳で、先輩たちが将来のために行かせてくれたと思っている。

その後、中国は（白猫黒猫論や先富論などもありながら）改革開放のスローガンのもと、2010年にはGDPで日本（約500兆円）を抜き、世界第2位となり、2015年には約1000兆円と言われていた。（但し、一人あたりのGDPは人口の観点から日本の5分の1くらいである）1980年代、大阪港の第1突堤は中国船優先バースとして、揺り籠から墓場までの原材料を提供した。現在ほぼほとんどの貨物がドアツードア（ドアからドアへ）でコンテナ化し、港区内で中国人船員を見かけることはまずない。

*パンパースの前にほんの少しの時期、貸おむつの時期があり、中国製品「尿布」が輸入された。又、船底にはバラスト材として、墓石用の御影石や閑空の土台造りにも使われたと思われるが大量のぐり石があり、それらが動かないように、間には園芸用の菜種カス肥料が詰められていた。一番変な品物は、人毛であり、80キロくらいの長方形の塊となっていた。醤油や味噌の促成醸造に使用するのだともっぱらの噂だったが、人間が生産したものだから、人体に無害ということで、タンパク質のシステインを抽出し、シャンプーなどの入浴剤の原料というのが本当のようだ。非番の中国人船員は、GENの事務所あたりまでよく散歩していた。

又、この間に、世界は1989年11月9日、ベルリンの壁が人々のハンマーで壊され、その約1年半後くらいに、ソビエト社会主義共和国連邦は崩壊した。戦後の平和共存体制は崩れ、社会主義思想そのものが問われだした。

中国は「韜光養晦」（才能を隠して表に出さない、国際問題については力をつけるまでは、ボチボチで行こう）をスローガンにしていたが、2012年9月の尖閣諸島問題で不幸な事態となった。

経済的には日本のGDP500兆円のうち、38兆円から40兆円くらいが、中国貿易と言われており、お互いになくってはならない存在であることは言をまたないであろう。しかしながら、最近の日本国内では中国の否定性ばかりが報道される。農薬入りギョーザ事件や社会主義と言いながら貧富のさが大きかったり、PM2.5だったり。今回私たちが見てきた、再生可能エネルギーとしての風

車の大設営やメガソーラーパネルの施設などはあまり報道されない。

私たちは、今回、柏樹郷の小学校を訪れた。中国の若い世代は確実に育っているのを見た。田舎の小学校でもネット回線を利用した教育が受けられるようで、都会との格差を縮めようとしているのが覗える。

私は帰国したら、私が所属していた（一応、定年延長も終わり、組合を脱退したことになっている）組合の若手にできるかぎり、中国の現状を伝え、環境と多様性の一つとして、GENの植林のことを伝えたい。

日々の生活で、文化の違いや考え方の違いは多々あるだろうが、お互いを知り、違うということを理解し、その中から平和を展望したいし、若い世代にはそうしてほしい。一衣帯水の隣国である。一人、二人、友達がおっても不思議ではなからう。

（かつて、1969年、ロシア（ソ連）はアムール川のダマンスキー島と呼び、中国ではウスリー川の珍宝島と呼ぶ島で国境紛争があったが、2004年ロシアのプーチン大統領と中国の胡錦濤主席の間で、島によっては2分割などという新しい国境が策定された。亡くなった兵士の数は公表されていないようだが、政治的解決をするならドンパチやる前にやれよ。そうすれば兵士は死ななくて済む。だいたい、兵士は貧乏人の子がなるのだから。）

* 2016年11月25日出版の中公新書『毛沢東の対日戦犯裁判』は参考になります。

* 尖閣問題は@外務省のHP @ GEN会員の村田忠禧著『日中領土問題の起源』花伝社 @ 沖縄（琉球）が日本領となった歴史 @小笠原諸島が日本領となった歴史などが参考になります。

④食事について（野菜とコラーゲンの旅）

何日目の食事だったか忘れたが、出された料理の写真を撮っていたら、たまたま隣り合わせた名古屋のSさんに、「写真を撮ってどうするの？」と聞かれた。思ってもいなかった問いかけて、その時はうまく答えられず、次の日9割思い出、1割料理への好奇心みたいな返答をした。帰国して写真を見ると17～18パーセントが料理だけの写真である。我ながらびっくりした。中華料理のコックでもないのに、何のため？ いや、何がそうさせたの？

大同は3回も行ったので、そう撮らなかった。撮っても特徴的な、個人別の羊のしゃぶしゃぶが出来るIH鍋とか、珍しいものだった。たぶん、蔚県は初めてだったので、何でも見てやろう精神が右人差し指を動かしたのだろう。

ということで、写真と胃袋が教える蔚県料理の特徴を言葉に。

（あくまで私たちが食べたものということです）

その1：関西人にはなじみのある豚足が初めのほうに出てくる。但し、中華包丁でバツバツぶった切ってあるので、バツと見、そう見えにくい。耳ガラの煮ごりもある。前菜として、味美。違和感なし。コラーゲンたっぷり！

その2：二日目夜、暖泉鎮では切っていない長いねぎがそのまま出てきて、味噌をつけて食べたが、辛みを殆ど感じなかった。これも、美味し。

その3：ちょいちょい辛い。羊肉の鍋など、赤い唐辛子が見え見えの鍋や皿がある。私的には、許容範囲だが見える唐辛子は避けた方がよいかも。青い唐辛子がまぎれこんだのものもある。当たり前、と思うべし。

その4：総じて野菜が多い。但し、生野菜は水の関係からか、少ない。今回はミニトマトと胡瓜の短冊、大根の皮むき、味噌付け。トマトの砂糖添え、と、季節の野菜甘酢かけ、先ほどのねぎくらいだったのでは？

その5：米文化圏ではなく、雑穀文化圏なので、朝食には粟と米を一緒に炊いた（赤飯に対抗した？）黄飯が出る。又、粟粥が一般的。又、饅頭・油条・ふかしパン・平餅・クレープを重ねたものなどが終わりに出る。豚肉やアンコ入りなどもある。

純粹の米飯はホテルで1回、チャーハンが1回。柏樹郷で2回だったと思う。柏樹郷はデカイ業務用の炊飯器を持っていてびっくりした。

その6：蔚県はまだコーヒー文化が根付いていないので、コーヒー党は持参すべし。スーパーにネスカフェがあるくらい。ホテルのウェルカムドリンクはそば茶だった。食事のお茶もそば茶。

その7：芋・豆がそのままあれば、加工したものもある。大豆を加工した固い豆腐と野菜を炒めたものなどが出た。おからも出た。加工されたものは、わからないときがある。

その8：チャンチンと卵を炒めたものは目茶うまい。これだけでご飯が進む。

その9：焼き餃子はない。水餃子のみ。

その10：魚は、サカナ1種類。多分、草魚と思う。中骨が枝別れしている。ここは内陸である。

その11：日本ではあまり見かけない、もちもちとしたとうもろこしがある。

餅を食べているようでうまい。

その12：塩漬けた大根を千切りしたようなのが、良く出た。塩分の欲しい私には有り難い一品だった。

その13：朝、茹で卵があったが、非常にむきやすかった。何故か？わざと古くしてあるという高見さんの説は説得力がある。多分、正解だろう。

その14：韃靼そば。好きな人にはたまらない一品です。（あまり、乃至はほとんど好きではない人がコメントするときの表現だそうだ。）

その15：時々、パッと見、何か解らないものがある。これをあてるのも、聞くのも楽しみであった。

12日の昼食には、馬の腸にラバの肉が出た。崔さんが説明してくれなかったら、何か解らなかった。

それにしても、良く食べ、良く写真撮ったなー。そういえば、回転盤担当者だった。

◆大同との今後の関係◆

【高見邦雄記】

みなさんと4月12日に蔚県で別れたあと、大同に行きました。くるまで約2時間。翌13日の午後、大同の重要な協力プロジェクト、南天門自然植物園（靈丘県上寨鎮、86ha）と実験林場・カササギの森（大同県聚楽郷、約600ha）を地元の政府に譲渡することになり、その贈呈式に参加しました。

2つのプロジェクトは、植栽は完成しています。樹木がよく育ち、緑いっぱいになっていますが、いいことばかりではありません。もっとも気がかりなのは山火事です。春先は雨がないうえに、風がつよく、極度に乾燥しています。4月5日（今年は4日）が二十四節気の清明節で、中国では先祖の墓参りをする日ですが、農村ではそのさいに火を使います。以前は燃えるものがなかったので、大きな問題は起きませんでした。いまはあちこちに森林が再生しており、火が飛んで山火事が発生しがちです。

民間の力ではこれ以上、管理することが難しいと感じるようになりました。やはり地元の政府に委ねる必要があります。

贈呈式には、大同市総工会の主席代理（筆頭副主席）の柴京雲さん、大同事務所の武春珍所長はじめ全所員、靈丘県総工会の副主席、上寨鎮政府鎮長、大同県の聚楽郷副書記などが参加し、大同日報、大同電視台の取材がありました。

席上、各政府の代表者と高見とが契約書にサインをし、それを交換しました。大同事務所の武春珍所長はあらかじめ署名していました。即座に発効しました。

南天門自然植物園の4人のスタッフは、李向東さんを除いて、上寨鎮政府のもとで引き続き、南天門自然植物園の管理を担当します。李向東さんは後述の緑の地球環境センターに転じることになりました。

残る私たちの協力拠点は緑の地球環境センター（大同県周土庄鎮）です。最終的な決定はまだですが、大同市総工会が臨時工、農民工の職業・生活訓練の場として使いたい意向です。中国の年度は1月1日から12月31日までです。今年度いっぱいは大同事務所がそのまま維持し、明年度から新しい使い方に移るようです。

柴京雲主席代理は、「きちんとやるから安心してほしい」と繰り返し私に約束しました。そうならば、私たちにとっても理想的な解決だと思います。（名称は変わるかもしれませんが）緑の地球環境センターがさらに発展して残り、そこを管理・運営する総工会の部門が実体をともなったカウンターパートとなるからです。

これからもツアーのみなさんにも大同に回って、成果を見守ってほしいと、口々に何度も求められました。



この記録は、緑の地球ネットワーク 2016年8月黄土高原スタディツアーに参加したみなさんがツアー中交代でつけた日誌と、一部参加者より事後に寄せられた手記をまとめたものです。一部の漢字・仮名遣いや句読点の使い方、改行の仕方、固有名詞の誤記等改めた部分もありますが、文章表現は原文のままです。ただし、簡体字（中国の略式漢字）は編集の便宜上できるかぎり相当する日本の漢字に改めました。